

令和2年度第1回加西市立図書館協議会議事録

日 時 令和元年9月30日(水) 15:00～16:40

場 所 加西市役所1階多目的ホール

出席者 委員9名：笹倉剛、松本孝美、松尾弥生、市浦央子、志方正典、東出一浩、
大崎あすか、伊藤浩信、井芹明美

教委・図書館3名：民輪教育長、藤川館長、伊藤主幹

欠席者 藤岡成子

1 開会 伊藤主幹が開会を伝えた。(15:00)

2 あいさつ

(1) 会長あいさつ

図書館は子ども達に夢を与えるところ、図書館は癒しの場所である。趣味や楽しみを見つけるためだけの図書館ではなく、自分の将来の生き方を探るような図書館を目指してほしい。

図書館を設置しているのは行政であるが、図書館を作るのは地域住民である。今日のような会議は大変価値があると思っている。みなさんの忌憚のない意見をお願いしたい。

(2) 教育長あいさつ

私の読書の元は、小学校の学校図書館でできた。本は私の知らない未知の世界を教えてくれる、私にとって大事なものである。

出版界の現状として、雑誌の休刊点数が、創刊点数を超えている。書籍の販売額は、1996年～1997年あたりをピークにどんどん減り続けている。それでも1年に75,000冊の新刊が発売されている。1日あたり約200冊が発売されていることになる。この中のどんな本が、加西市立図書館に入ってくるのか、選書は大変重要な仕事である。公共図書館の役割は大きい。

前頭葉が動くのは本を読んでいるときである。テレビやインターネットを見ても前頭葉は動かない。図書館が良書を市民に届けることは大変大事なことである。図書館は本の貸出だけが業務ではなくて、知の牙城である。館長には、どんどん面白いことに取り組んでもらって、加西市立図書館を躍動感ある知の牙城にしてほしい。

3 自己紹介

委員、職員が自己紹介を行った。

4 報告・議事事項

伊藤主幹から、以後の議事進行を笹倉会長に依頼した。

(1) 令和元年度図書館事業実績報告について(藤川館長説明)

教育長：市外在住の方は加西市立図書館で本を借りられないのか。

事務局：近隣市在住または加西市勤務の方に広く借りていただける。しかし、神戸市は対象外である。

委員：実績報告の個人貸出登録者数において、加西市民のうち何%の人が登録しているのかを記載してほしい。だいたい30%前後が多いのだが、令和元年度では何%なのか。

事務局：約26.4%の市民が登録している。

委員：できれば30%を超えるくらいの方に登録してほしい。

委員：乳幼児健診の際に、図書館のお知らせ等は配られているのか。

事務局：出生届提出時に、市民課でおすすめ本の紹介冊子「あかちゃんといっしょ」や図書館カード作成の案内チラシを配布してもらっている。

委員：図書館は生涯学習施設の拠点でもあるが、市民の税金が一番還元される施設でもある。そういう意味で貸出登録者数が多いほど市民に還元していることになるので、登録者数の増加に努めてほしい。

委員：加西市では乳幼児に絵本のプレゼントをされているが、その際に図書館のPRはしているのか。

事務局：絵本のプレゼントはこども未来課が実施している。以前はその時に図書館からのおすすめ本の紹介冊子を絵本と一緒に保護者に渡してもらっていたが、現在は出生届時に渡しているため、乳幼児健診（絵本のプレゼント）の際には、図書館からは何も渡していない。

委員：他市町村では健診時に図書館職員が読み聞かせをして、図書館カードを作るということを実施している。

事務局：加西市立図書館でも、乳幼児健診の際に、図書館として何かできないか。と検討したが、健診時に保護者に集まってもらい、ある程度の時間をとることがなかなか難しかった。その後、新型コロナウイルスが発生し頓挫している。

委員：先日、民間の子育てひろばに行ってきた。その時参加されている方に「あかちゃんといっしょ」の冊子を見せて、「市立図書館から配布されている冊子です。」と話したら「こんなのもらったかな。」という返事が返ってきた。出生届時には、多くの書類が保護者に渡される。その中に図書館からのお知らせが入っていても保護者は見ないのではないか。絵本もまだもらっていなかったので「絵本の引き換え券も入っていると思うので確認してみて。」と伝えた。市では良い取組をしているが、それが市民に伝わっていないのではないか。

委員：広島県府中市の図書館では、毎週保健師が来られて子育て相談をしている。図書館に行けば子育ての全てがある、というのが図書館だと私は思っている。子育てに関する本もあるし、カウンセリングも受けられるというふうに。将来の図書館利用者を増やすために乳幼児はとても大切だと考えている。乳幼児と保護者をいかに図書館のファンにするか、「図書館って子育てにいいところだなあ。」と思わせる工夫をしてほしい。

委員：小学校で図書館の出前講座を利用させてもらっている。訪問してくれる図書館スタッフが、毎年工夫を凝らして内容が充実している。昨年度、図書館担当で学校のおすすめ本を選定した。その際にも図書館スタッフに関わってもらった。気軽に相談に応じてもらえるので助かっている。

委員：図書館からこども園に2ヵ月ごとに50冊、絵本を届けてもらっている。園でも1日1冊、子どもたちに本の読み聞かせをしている。自分の子どもが小さい時は、図書館

でよく絵本を借りていたが、子どもが大きくなって自分で本を選べるようになったら図書館に行かなくなってしまった。と反省している。そんな家庭も多いのではないか。

委員：小さな子どもは、親が連れて行ってあげないと図書館に行くことができない。

委員：こども園での読み聞かせは誰がしているのか。

委員：担任の教諭が各クラスでしている。

委員：シルバー人材センターの方が、支援員としてこども園で勤務しているが、読み聞かせはしていないのか。

委員：シルバー人材センターの方は、預かり保育の時間帯に勤務してもらっていて、個別に本を読んであげることはあるが、たくさんのおもたちの前での読み聞かせはしていない。

委員：シルバー人材センターで子育て支援の研修会をされている。私は自分の仕事の関係で毎年その研修会を担当させてもらっている。その中で「どのように読み聞かせたらよいかわからない。」「絵本の選び方がわからない。」などの悩みがある。

委員：シルバー人材センターの方が、そのような研修会をされているのなら、こども園での読み聞かせもお願いしようかと思う。

委員：現在、ネットで「りぷりんと」という全国的な活動が展開されている。東京都健康長寿医療センター研究所において、60歳を過ぎて5年以上読み聞かせを続けたグループと読み聞かせをしなかったグループに分けて、人の脳の海馬の萎縮がどの程度進んでいるかを調べたところ、読み聞かせをしたグループは5%程度しか萎縮しなかったが、読み聞かせをしなかったグループは40%以上萎縮したという研究結果がある。加西市立図書館でも60歳以上の方を養成して、読み聞かせボランティアとして活動してもらってはどうか。シルバー世代に子育てに関わってもらってはどうか。

委員：図書館で団体貸出の数が伸びているということであるが、総合教育センターでも学校に希望を聞いて本の団体貸出をしている。忙しい先生も団体貸出をするとよく本を借りられる。学校の職場に1冊しかない本は、総合教育センターから借りて、読んだりしている。

委員：学校等の団体貸出は学校からだれかが借りに来るのか。

事務局：図書館スタッフが配達している。

委員：図書館PRキャラバンの数字が昨年に比べ非常に増えているがなぜか。

事務局：前年度はPR不足であったため、依頼が少なかった。令和元年度は、幼保施設等への周知に努めた。

(2) 令和2年度図書館事業計画について（藤川館長説明）

(3) 空調設備改修工事について（藤川館長説明）

(4) 新型コロナウイルス感染予防対策について（藤川館長説明）

委員：現在は、コロナウイルスが落ち着いている感があるが、一番流行していると感じられていた時に、カウンターで窓口対応をしていた図書館スタッフが手袋をしていなかった。アルバイト職員が手袋をしないで勤務していることが心配であった。

事務局：図書館スタッフには手袋をするように伝えたが、図書資料を扱いづらいということ

で、手袋をする職員は少なかった。

委員：カウンターで利用者との応対前に手指消毒をしてもらえると安心する。

事務局：カウンター用に消毒液は置いている。利用者ごとに毎回消毒することまではできないが、適宜手指消毒をしている。

(5) 加西市子ども読書活動推進計画（第三次）について（伊藤主幹説明）

事務局から計画策定のスケジュールと概要を説明し、協議会委員からの意見を10月16日期限内で受け付ける旨伝えた。

5 連絡事項

次回開催は、令和3年3月中旬から下旬の予定で了承を得た。

6 閉会 松本副会長が閉会のあいさつをした。

みなさんのいろいろな意見を聞くことができ、実りある会議であった。加西市内外の人が加西市立図書館を利用して、図書館が前向きに発展していくようこれからもがんばってほしい。

(16:40終了)